

特集

たくさんのボランティアかけつける — 災害ボランティアセンター設置 —



ボランティアセンターに並ぶ資機材



連日多くのボランティアさんがかけつけてくれました



ボランティアの皆さん(数字はのべ数です。)

久留米市にも 大きな被害が

6月28日から7月8日までの間、西日本を中心に広い範囲で「平成30年7月豪雨」が発生しました。土砂災害や浸水被害などが頻発し、久留米市でも床上浸水、床下浸水など多くの被害が発生しました。

市社会福祉協議会では、市の要請により、7月9日、久留米市災害ボランティアセンター(以下、災害ボランティアセンター)を設置しました。災害ボランティアセンターは、被災された世帯の、日常の生活を回復することを目的に活動します。災害ボランティアセン

ターは、NPO法人や防災士会、たくさんのボランティアさんにより支えられました。

被災者に 寄り添って…

被災者からは、濡れた畳の畳上げや床下の泥や水出し、家具の移動、水害ごみの搬出などの相談が災害ボランティアセンターに寄せられました。

被災者宅で、濡れた家財の搬出を依頼された際は、ボランティアさんが被災者に、残すもの、捨てるもの一つ一つ確認し、捨てる場合も「被災者にとっては思い出がつまったもの」という思い



ボランティア帰着対応

をもって活動を行いました。連日、気温が高い中で活動でしたが、被災者から「濡れた家具の搬出は一人ではできないので助かりました」「どこから手をつけようかと途方に暮れていました」と感謝の言葉をいただきました。活動後、疲れをにじませながらも、やり終えた達成感で多くのボランティアさんが笑顔だったのが印象的でした。

